

記 入 日 2012 年 1 月 16 日

## 1. 概 要

実践団体名	秋田県大館市立第二中学校		
連絡先	※代表者または担当者の連絡先電話番号		
プランタイトル	㊦んぜんて ㊧さしき ㊨ぐる 「アヤメの里」の防災教育		
プランの対象者※1	中学生、保護者、地域住民	対象とする災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント！】

- ・大地震発生後の被災状況を把握させるとともに、中学生としてできる地域での防災活動や防災訓練などに積極的に参加する意識を高め、自他の生命を尊重する態度を養う。
- ・通学路を中心とした地域における地震発生時に起こりやすい危険箇所に気づき、どのような対策を立てたらよいかなど地域防災マップを活用して、具体的に行動に結びつく力を身に付ける。
- ・災害時の自分自身の安全に加えて、災害時の被害者の救出や地震後の火災発生防止など二次災害を防ぎ、家庭や地域の人々の安全を守るために必要な事柄を取り上げ、理解できるようにする。

## 【プランの概要】

- ・生徒会の活動を中心に、町内会長連絡協議会等、地域の協力を仰ぎ、地域防災マップを作成して、DVDに収録し地域に配布するとともに、学校や公民館のホームページにも掲載する。
- ・生徒、教師、保護者や地域住民の参加による心肺蘇生法の習得とAEDを含む救急救命講習、避難訓練、防災教育講演会を実施する。

## 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・防災教育による生徒一人一人の実践的対応能力の向上
- ・自分たちの地域は自分たちで守るという地域ぐるみの防災意識の高揚
- ・大規模な災害時に何ができるのか、何をすべきなのかについて考え、行動できる人材の育成

## 2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	防災教育検討委員 会の設立		メール送信システムの起ちあげ 町内班会の再構築
5月		避難訓練、防災教育講 演会の準備	修学旅行でのそなエリアの見学 学校報「あやめ」の発行
6月			第1回避難訓練 第1回防災教育講演会
7月			
8月		防災マップの原版の作 成	AEDを含む救命講習会 保健体育の着衣水泳の学習
9月	後半のプランの見 直しと計画	町内会長と中学生の班 長との打ち合わせ 学校祭での防災に関す る展示の準備	町内班会の話し合い 防災学習の日 総合的な学習の時間の全校発表会 理科の火山活動の学習
10月			地域防災マップの作成 学校祭での防災に関する展示 なべによる炊飯
11月	次年度のプランの 作成	防災マップの説明の練 習と撮影 防災教育講演会の準備	
12月		避難訓練の準備 防災マップのDVD化 の資料準備	第2回防災教育講演会 小学校での地域防災マップの説明
1月			第2回避難訓練（積雪時） 防災マップのDVD化
2月			
3月	次年度のプランの 計画		

### 3. 実践したプランの内容と成果

#### 【実践プログラム番号：1】※3

タイトル	修学旅行でのそなエリアの見学と災害の疑似体験
実施月日（曜日）	5月25日（水）
実施場所	東京臨海広域防災公園「そなエリア」
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：加藤達美 所属・役職等：3年部主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 3 体験学習
活動目的※5	5 災害を疑似体験
達成目標	災害時における行動について学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 ・そなエリアについてどのような施設なのかを学習する 当日 ・グループに分かれて、災害後の3日間の行動について疑似体験。 事後 ・総合的な学習の時間において、新聞形式にまとめた。 ・全校発表会で、代表のグループが全校生徒の前で発表。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・第二中学校3年生徒
参加人数	62名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・災害発生時の疑似体験ができ、映像による学習も考えさせられるところがあり、有意義であった。  【課題】 ・体験したことを日常の生活にもつなげて生かしていけるようにしたい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：2】※3

タイトル	第1回避難訓練
実施月日（曜日）	6月1日（水）
実施場所	第二中学校校舎、グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：伊多波卓美 所属・役職等：生徒指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	地震発生時の安全確保と避難の仕方を身に付ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	訓練 ・地震発生時の安全確保について ・安全な避難の仕方について ・停電時を想定したハンドマイクによる避難方法や避難場所の指示 ・けが人への対応の仕方について
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒、全職員 ・大館広域消防署北分署 消防士（5名）  ・ハンドマイク、担架、避難誘導旗
参加人数	177名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・地震発生時の安全確保と避難の仕方のポイント、停電時を想定した対応の在り方を確認できた。  【課題】 ・授業中のほか、休み時間や放課後などの避難についても経験を積ませたい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号：3】** ※3

タイトル	第1回防災教育講演会
実施月日（曜日）	6月1日（水）
実施場所	第二中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏名：阿部 行秀 所属・役職等：大館広域消防署北分署 消防士
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	震災に備え、日頃からできる対策について理解できる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講話 ・東日本大震災における被災地の現状について ・被災地での救援活動の様子について ・日頃から取り組める防災活動について
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・大館広域消防署北分署 消防士5名 ・プロジェクター、パソコン
参加人数	177名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・被災地の現状を知り、自分たちに何ができるかを考える一助となった。 ・家庭で取り組める防災活動に理解が深まった。  【課題】 ・講話で高まった防災意識を持続させるために、事後の指導の在り方を検討したい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：4】※3

タイトル	AEDを含む救命講習会
実施月日（曜日）	8月23日（火）
実施場所	第二中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：永井千鶴子 所属・役職等：養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会
活動目的※5	7 技術を身につける
達成目標	心肺蘇生法と自動体外式除細動器（AED）について理解する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1 講師紹介 2 応急手当の目的・必要性についての講話 3 実技（グループごと）①心肺蘇生法 ②AEDの使用方法 4 感想発表 5 事後指導（ワークシートへの記入）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・大館市消防本部より講師3名 ・訓練用人形、訓練用AED、講習テキスト
参加人数	生徒54名、教職員8名、地域の方々33名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・生徒・教職員のみならず、地域の方々と講習を受けたことにより、各々の防災意識が高まった。  【課題】 ・保健体育課の応急処置の学習とも関連付けながら、実践力を高めたい。 ・より実践的な場面を想定した救命処置の講習を計画したい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：5】※3

タイトル	町内班会
実施月日（曜日）	9月15日（木）
実施場所	第二中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：成田 佳 所属・役職等：生徒会担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	防災学習の日に向けて役割分担などを確認し、地域防災マップづくりへの意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 ・中学校の町内班長が、各町内会長さんの自宅に出向き、「防災学習の日」の内容について打ち合わせを行った。 当日 ・「防災学習の日」の調査内容の確認、場所や活動の役割分担 ・地域ボランティアの内容と、準備物の確認
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・各町内班長、職員22名、各町内会長 ・地域防災マップ原版
参加人数	全校生徒150名、町内会長20名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・最上級生が中心となり異学年の生徒が話し合い、活動を計画することで、協調性も育ち、有意義であった。 【課題】 ・町内班長への事前指導など、さらに生徒主体の話し合い活動ができるような手立てが必要だと感じた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号：6】** ※3

タイトル	防災学習の日
実施月日（曜日）	9月22日（木）
実施場所	学区内の各町内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：成田 佳 所属・役職等：生徒会担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	地域の方々とともに町内の防災施設や危険箇所を確認し、地域防災マップづくりにつなげる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々と共に避難場所や消火栓、公衆電話、AEDの設置場所、危険箇所などを調査して、メモ用の地域マップに書き込む。また、写真も撮影する。</li> <li>ボランティア活動をあわせて実施し、町内会長さんなど地域の方々の意向を伺いながら、自分たちでできることを行う。</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒、各町内の会長さんをはじめとする地域住民</li> <li>メモ用の地域マップ、デジタルカメラ</li> </ul>
参加人数	全校生徒150名、職員22名、地域住民87名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々とともに活動することで、コミュニケーション能力も育ち、中学生が地域の一員であることを自覚するなど、プラスになる点が多かった。</li> <li>ごみの処理や草刈り、掲示板の清掃など地域ボランティアも一緒に行ったことで、地域とのつながりがさらに深まった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後は避難所の内部の設備など、より詳しい調査をしていきたい。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：7】※3

タイトル	地域防災マップの作成
実施月日（曜日）	10月3日（月）、4日（火）
実施場所	第二中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：成田 佳 所属・役職等：生徒会担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	2 防災に関する資料・材料づくり
達成目標	防災関連の情報を盛り込んだ地域防災マップを全校生徒で作成し、学校祭で展示する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査してきた内容についてシールで示し、説明書きを付け加える。</li> <li>・撮影してきた写真を貼り、分かりやすいように示す。</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部を中心とした全校生徒</li> <li>・地域防災マップ原版、シール、マジック、写真、</li> </ul>
参加人数	全校生徒150名、職員22名
経費の総額・内訳概要	資料・材料費 87400 円（模造紙、マジック、シール他）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒が協力し合って各町内の地域防災マップを作成し、完成したものを全て掲示することで、達成感を味わうことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに正確で、積雪時の場合などの情報の多様なものが必要だと感じた。</li> </ul>
成果物	地域防災マップ（模造紙版）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：8】※3

タイトル	学校祭での防災に関する展示
実施月日（曜日）	10月8日（土）9日（日）
実施場所	第二中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：嘉藤 伸 所属・役職等：防災教育主担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	12×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 行事
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	地域防災マップなど、今年度の防災に関する作品などを展示することで、生徒、保護者や地域住民への啓発活動を行い、防災意識の高揚を図る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災展示の担当生徒の希望を募り、アンケート実施、集計、防災に関する啓蒙資料などを作成する。</li> <li>・全校制作の地域防災マップを並べて展示する。</li> <li>・大館消防署から資料を借用し、展示する。</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災展示担当を希望した生徒を中心とした全校生徒</li> <li>・模造紙、マジック、写真、アンケート用紙</li> <li>・消防署から借用した東日本大震災の救援活動の写真、火災報知器・家具転倒防止用品などの防災グッズ</li> </ul>
参加人数	全校生徒150名、職員22名、地域住民来校者350名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校制作として各々のグループが取り組んできた地域防災マップを完成させ、一堂に会して展示することで、他町内の様子も知ることができ、自分たちの活動が確認でき、成就感・達成感を味わった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する資料を計画的に作成し、さらに全校生徒の防災意識が高まるものを作成したい。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：9】※3

タイトル	第2回防災教育講演会
実施月日（曜日）	12月9日（金）
実施場所	第二中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：村上まゆみ 所属・役職等：秋田県教育庁保健体育課 指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	一人一人の防災意識を高め、地域と連携しながら助け合おうとする態度を育む。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講話「被災地を訪問して」 ・秋田県から東日本大震災の被災地に派遣され、救援活動を行った養護教諭の体験談
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師：秋田県教育庁保健体育課 指導主事 村上まゆみ 氏 ・プロジェクター、パソコン
参加人数	生徒、保護者、職員、地域住民 計約230人
経費の総額・内訳概要	会場費 20,000円（音響機器、プロジェクター等借用料）
成果と課題	【成果】 ・映像を使った講話により、被害の大きさを改めて知ることができた。また、釜石東中の生徒たちが作成した防災DVDを視聴したことで、防災活動への意欲が増し、防災への意識が高まった。  【課題】 ・生徒の防災意識の高まりを、主体的な活動へつなげる具体的な手立てを検討したい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：10】※3

タイトル	小学校での地域防災マップの説明と集団下校
実施月日（曜日）	12月16日（金）
実施場所	大館市立釈迦内小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：成田 佳 所属・役職等：2年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習
活動目的※5	10 その他「学習したことを普及させる」
達成目標	同じ学区の小学生に防災マップの説明をしたり、集団下校したりして、小学生の防災意識を高めるとともに、お互いに顔見知りになることで、絆を深める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 ・説明するための練習を行った。 当日 ・スクールバスで移動後、小学校の町内児童会に中学生が参加、地域防災マップについての説明を行った。 ・町内ごとに集団下校し、中学生が危険箇所について説明した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・第二中学校2年生徒 ・地域防災マップ
参加人数	第二中学校2年生徒54名、釈迦内小学校児童300名
経費の総額・内訳概要	移動のためのバス借用代 1,350円（別経費から）
成果と課題	【成果】 ・生徒が自分たちの調べてきたことを、自信をもって発表することができたこと、集団下校の際に小中学生ともに実際に危険箇所を確認することができた。  【課題】 ・小学校と距離的に離れているため、小学校との連携の在り方が難しい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：11】※3

(実施後差し替え)

タイトル	第2回避難訓練
実施月日(曜日)	1月18日(水)実施予定
実施場所	第二中学校校舎周辺
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：伊多波卓美 所属・役職等：生徒指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	積雪時の安全確保や避難の仕方を身に付ける
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	訓練 ・火災発生時の避難の仕方について ・積雪時の避難の仕方について
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全職員、全生徒 ・放送機器、避難誘導旗
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】  【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：12】※3

タイトル	地域防災マップ（DVD版）の作成
実施月日（曜日）	11月～1月
実施場所	第二中学校、各町内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：嘉藤 伸 所属・役職等：防災教育主担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間 他
活動目的※5	2 防災に関する資料・材料づくり
達成目標	完成した地域防災マップをDVDなどの電子データにし、地域に配布したり、ホームページに掲載したりする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDの設置場所に関して、ビデオ撮影する。</li> <li>・生徒による地域防災マップの説明の様子を撮影する。</li> <li>・模造紙の地域防災マップの写真と、生徒の説明の様子等を組み合わせて、各町内の防災関連施設や危険箇所をわかりやすく知ることができるようにする。</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生を中心とした全校生徒、コンピュータ関連会社社員</li> <li>・デジタルビデオカメラ、DVD</li> </ul>
参加人数	全校生徒150名、職員22名
経費の総額・内訳概要	資料・材料費 42,800円（DVDディスク、カラーインク代等）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校にある防災マップだけでなく、各町内にもDVD化したものを配布することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらにわかりやすく、使いやすいものに改良していきたい。</li> </ul>
成果物	地域防災マップDVD版

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育については、今までも避難訓練などを行ってきたが、校内組織の見直しや、たくさんの地域の方々の協力を得ながらの取り組みは経験がなく、どのようにプランをすすめればよいか、他の取り組みを参考にしながら、試行錯誤の連続であった。</li> <li>・計画、立案にあたっては、何度か防災教育検討委員会で話し合いを重ねてきた。その結果、いろいろなアイデアが出され、校内の教育活動が活性化されてきた。</li> <li>・計画、立案の際、生徒会執行部など生徒の意見を取り入れて進めてきた。そのため、生徒に、防災に対して自主的に取り組もうとする意識が生まれた。</li> </ul>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AEDを含む救命講習会や、防災マップの作成にあたっては、地域の方々の協力を得ながら進めてきた。地域と連携しながらプランを進めることで、いざというときの災害への対応がしやすくなると考えられる。</li> <li>・地域との連携は、これまでも、ボランティア活動や地域の祭典の時など日常から行ってきた。日頃からの連携が、いざというときのためになると考えている。</li> <li>・地域防災マップの作成や、小学校と連携しての活用などについては、生徒会執行部を中心として、生徒が主体となって活動できるように進めてきた。生徒たちは、リーダーシップや上級生としての自覚が育ってきた。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップのDVD版を作成する際、デジタルビデオでの撮影や記録の仕方、また編集方法等がよく分からず、苦勞した点が多かった。</li> <li>・プランを進めるにあたって職員の共通理解を図り、組織を作ったり、役割を分担したりするところが難しかった。</li> <li>・東日本大震災によって防災教育に対する注目度は高まってきているが、今後も生徒の防災意識の高揚、実践力の育成、災害時の備えについて、継続して取り組んでいくことが大切だと考えている。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大館市立積迦内小学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の町内児童会において、本校生徒が地域防災マップを利用して、危険箇所や防災施設について説明した。</li> <li>・本校生徒と小学校児童が集団下校を行った。</li> </ul>
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育講演会や救急救命講習会などに参加し、生徒と共に活動した。</li> </ul>
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町内会</li> <li>・積迦内地区まちづくり協議会</li> <li>・地域住民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災学習の日で調査活動への協力を依頼した。</li> <li>・協議会が主催する地震対応講習会に本校職員が参加した。</li> <li>・防災教育講演会や救急救命講習会などに参加し、生徒と共に活動した。</li> </ul>
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大館市消防本部</li> <li>・大館市役所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸法の習得とAEDを含む救急救命講習会の講師をしていただいた。</li> <li>・学校祭の防災展の展示資料を借用した。</li> <li>・避難所など防災に関する情報の提供を受けた。</li> </ul>
企業・ 産業関連の組合等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東光コンピュータサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災マップのDVD化にあたり、編集作業にアドバイスをしてもらった。</li> </ul>
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の防災に対する意識が高まり、災害弱者などの人を思いやる気持ちが育ってきた。</li> <li>・生徒が地域に目を向け、地域の一員であることを自覚し、地域と共に活動する意識が高まった。</li> <li>・災害に対する備えを充実させるなど、地域の方々の防災意識が高まった。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災学習の日に地域の方たちとともに危険箇所を確認したり、小学校で地域防災マップを解説し危険箇所を確認しながら集団下校を行ったり、そのほかの活動にも、地域住民を巻き込んで生徒とともに活動できたことが、好評を博しており、様々な教育効果が生まれたと感じている。</li> <li>・課題としては、生徒が防災についてのアイデアを出したり、避難訓練の計画・立案などしたりするなど、より主体的で実践的な活動をしていくことが必要だと感じている。また、校内の組織を充実させ、今まで以上に全職員で取り組むプランにしていきたいと思っている。</li> </ul>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>今年度の取り組みをもとに、中学生が地域の防災リーダーとなることを目指し、さらに積極的に活動できるよう、次のように計画している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 冬季の防災に重点をおき、積雪時の危険箇所の確認などを含めた地域防災マップのバージョンアップを図る。</li> <li>2 大規模な災害が発生した際に、自分たちの学校が避難場所になることを想定し、学校施設における備え、地域住民の避難場所の利用法、中学生の参画の仕方を考える。</li> <li>3 市内にあるリサイクル施設の災害に対する役割を理解し、放射性物質等の処理問題についての安全性を明らかにする。</li> </ol>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

今年度の取り組み

1. 防災教育検討委員会の設立により、防災計画の見直しと連絡体制の確立
  - 学校のパソコンまたは担当者の携帯から保護者の携帯へのメール送信システムを構築し、緊急通知や災害時の連絡に活用できるようになった。
  - 生徒の町内班会を再構築し、口頭による情報連絡網を整備した。
2. 東京臨海広域防災施設での体験学習
  - 地震発生直後の行動について疑似体験と映像による学習を実施した。



停電時の避難に備えてハンドマイクを設置



そなエリアでの災害の疑似体験

3. 地震を想定した避難訓練の実施
  - 停電時におけるハンドマイクでの避難指示や避難方法や避難場所、けが人への対応など、より実践に即した訓練ができ、効果的であった。



地震・停電時を想定した避難訓練

### 4. 防災教育講演会

- ①被災地の救助活動に携わった消防士のお話を聞き、被害の現状や支援活動の実際を知り、生徒は災害について真剣に考えるよい機会になった。
- ②被災地を訪問した養護教諭等派遣のお話では、避難所での苦労の様子をうかがうことができた。



消防士による被災地での救援活動について



被災地を訪問した養護教諭の活動について

(自由記述: 1/3)



### 8. 地域防災マップの作成



地域防災マップづくりに  
ついての説明



町内会での話し合い  
地域防災活動の計画

#### 地域での防災調査活動



地域の方による危険箇所  
等の説明



消火栓・公衆電話等の設置  
箇所を調査



地域の方々とともに  
掲示板の清掃



町内ごとに「地域防災マップ」を作成



学校祭での「地域防災マップ」の展示



小学校での「地域防災マップ」の説明



小中の集団下校で危険箇所を確認

(自由記述: 3/3)